H22.04.19 「H22年度HIMAC共同利用研究成果発表会」

19P178 入射核破砕片の 生成メカニズムの研究

高知工科大学 <u>百田佐多生</u>,大井一喜,今西郁弥, 熊本隆志,豊永拓也 放医研 金澤光隆,北川敦志,佐藤真二

研究の目的

入射核破砕片の I) 運動量分布 2) 生成断面積

研究の目的

入射核破砕片の I) 運動量分布 2) 生成断面積

データの解析
 ●運動量分布の中心や広がり
 ●生成率の偶奇性等

反応のメカニズム

- 関与する相互作用
- ◎ 核構造の影響
- 🝚 クラスター相関

研究の目的 入射核破砕片の り運動量分布 2)生成断面積

●運動量分布の中心や広がり
 ●生成率の偶奇性等

系統的なデータ
 系統性→半経験的公式
 核データ

反応のメカニズム

- 関与する相互作用
- ◎ 核構造の影響
- 🍚 クラスター相関

重イオンビームの利用
○ 二次ビーム収量の予測
○ 物質内部での重イオンビーム輸送
のシミュレーション

入射核破砕過程

• 破砕片の生成



• 破砕片の運動量分布

入射核破砕過程

• 破砕片の生成



• 破砕片の運動量分布





非対称なガウス分布関数による解析 1)運動量の広がり :σ_{Low}, σ_{High} 2)減速効果 :-Δ*P*L

今までの成果 1 運動量の広がり: GLow, GHigh







非対称な分布
 σ_{Low} ~ 1.2σ_{High}

ビーム依存性
 σ₀(Kr) > σ₀(Ar)

今までの成果 2 ・ 減速効果: - APL









今までの成果 3 Arビームから生成される破砕片の GProd.









lsotopic/lsotonic分布 ♀ペアリング効果 ◎殻効果

H21年度に行った測定
 Krビームから生成される破砕片



H21年度に行った測定
 Krビームから生成される破砕片



破砕片の計数精度の向上F3SSD×2



破砕片の計数精度の向上 • F3SSD×2





破砕片の計数精度の向上 • F3SSD×2





破砕片の計数精度の向上F3SSD×2





破砕片の計数精度の向上 • F3SSD×2





PL分布: G0の系統性

標的依存性 エネルギー依存性



P公布: **G**の系統性

• 標的依存性







PL分布: Gの系統性

• 標的依存性







Pr分布:広がりと偏向 ⁸³Br (←⁸⁴Kr)の角度分布 off-centered Gauss Func. による解析

Pr分布:広がりと偏向 ⁸³Br (←⁸⁴Kr)の角度分布 off-centered Gauss Func. による解析







破砕片の生成断面積

 PL分布の積算 計数精度の向上 入射核付近の*Bp*での再測定
 PF分布の積分 広がり(σ_T)と偏向現象(ΔP_T)の定式化

H22年度の予定

測定 破砕片の計数精度の向上

入射核の*Bp*近辺での再測定

Tb標的を使った*P*-分布の測定

解析 ③破砕片の角度(P_T)分布 $\rightarrow \Delta P_T$, σ_T ④Krから生成される破砕片の生成断面積



"Shift and width of momentum distribution of projectilelike fragments produced at 290MeV/u"

S. Momota, M. Kanazawa, A. Kitagawa, S. Sato, and Y. Nojiri 3rd Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the APS and JPS Oral presentation, Hawaii, USA, Oct./2009.

Systematic investigation on momentum distributions of projectile-like fragments at E/A=290 MeV"

S. Momota, M. Kanazawa, A. Kitagawa, S. Sato, Y. Nojiri International Conference on Nuclear Data for Science and Technology(ND2010) Accepted as oral presentation, Jeju, Korea, Apr./2010.